



平成 20 年 10 月 3 日
独立行政法人国立科学博物館

重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）の登録制度と 第 1 回の登録証授与式について

独立行政法人国立科学博物館（館長：佐々木 正峰）は、「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」及び「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存と活用を図るために重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）の登録制度を開始いたしました。

このたび、第 1 回目として 23 件の重要科学技術史資料を登録し、資料所有者をお招きし、下記のとおり登録証及び記念盾の授与式を行いますのでお知らせいたします。

なお、授与式ご出席の際は、別紙 F A X でご連絡いただきますようお願いいたします。

記

「重要科学技術史資料」登録証及び記念盾授与式

期 日 平成 20 年 10 月 9 日（木）
会 場 国立科学博物館 日本館 4 階 大会議室
【東京都台東区上野公園 7-20】
次 第 13:30～ 受付
14:00 開式
国立科学博物館長挨拶
14:10 登録証及び記念盾授与
14:30 閉式

授与式終了後、国立科学博物館地球館 2 階において、重要科学技術史資料に関するパネル展示をご覧いただけます。

ご希望の方に、第 1 回登録資料のデジタル写真をご提供します。（10 月末までご請求いただけます。）

なお、本件に関しましては、同時に経済産業記者会にもリリースいたします事をお知らせいたします。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

産業技術史資料情報センター 担当：清水（参事）・久保田（研究員）

〒104-0032 東京都中央区日本橋宝町 2-1-1 三井本館 5 階

TEL:03-3510-0880（代表） FAX:03-3510-0889

E-mail:sts2006@kahaku.go.jp

<http://www.kahaku.go.jp/institution/sts/index.html>



1．重要科学技術史資料（未来技術遺産）の登録制度とは

国立科学博物館では、「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」及び「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存と活用を図るために、関係する工業会及び学協会と協力して、調査研究活動を従来から行ってまいりました。これらの資料は、近年の科学技術の急速な発展、技術革新や産業構造の変化の中でその本来の意義が見失われ、急速に失われようとしています。国立科学博物館では、このような資料の保存を図るとともに、科学技術を担ってきた先人たちの経験を次世代に継承していくことを目的として、重要科学技術史資料の登録制度を実施いたします。

未来技術遺産（愛称）：過去の科学技術史資料のうち未来へ引き継ぐべき遺産として名づけた愛称。

2．登録制度の内容

台帳への登録及び登録証等の交付：国立科学博物館の『重要科学技術史資料登録台帳』に登録するとともに、所有者に国立科学博物館から重要科学技術史資料として登録されたことを示す登録証及び記念盾（別紙1参照）を交付します。

現状変更等の連絡：所有者から登録資料の移動・破損等の状況等について連絡を受け、資料の状況についてできる限り記録します。また、国立科学博物館から定期的に現状の確認を行うことなどによって、できるだけ多くの資料の散逸を防ぎます。

情報の公開：登録台帳を作成するとともに、国立科学博物館ホームページ上において、重要科学技術史資料に関する情報の公開を行います。（個人情報等は除く。）

パネル展示の実施：重要科学技術史資料を紹介するパネル展示を行います。

3．登録制度の特徴

国立科学博物館が行う重要科学技術史資料登録制度は、日本の全科学技術を対象とし、資料の保存とその活用を図ることを目的としています。

また、この活動は、国立科学博物館で平成9年以来行ってきた産業技術史資料の所在調査や、経常的に行われている科学技術史・産業技術史研究の成果を基盤として行われています。

さらに、重要科学技術史資料に登録されると、資料の保管場所等が変更されるつど、所有者は国立科学博物館にご連絡いただく一方、国立科学博物館では定期的に資料の状況を確認するなどのアフターケアを行う予定です。



【参考】

1．登録までの流れ（別紙2及び3参照）

今回の重要科学技術史資料の登録は、国立科学博物館で行っている産業技術史資料の所在調査によって得られた情報（平成19年度末現在、電子機械・化学工業など105分野、11,634件）の中から、具体的にVTR技術・第1世代コンピュータ技術・塩化ビニル製造技術といった21の個別の技術分野を選定して、技術の歴史的な経緯を整理する系統化研究を行ったうえで登録候補を選出いたしました。また、あわせて、国立科学博物館の既往の研究成果に基づいて選出した資料を登録候補として、全23件の登録候補を選出しました。その後、外部有識者によって構成される重要科学技術史資料登録委員会（委員長：末松安晴）における審議結果を踏まえて、最終決定に至りました。

2．登録制度の今後について

国立科学博物館では、今後も引き続いて、製紙技術・デジタルカメラ技術・しょう油製造技術等の個別の技術分野を対象に、継続して重要科学技術史資料の登録を行います。また、すでに登録された重要科学技術史資料については、資料の状況を定期的に確認いたします。

こうした活動を通じて、未来に残すべき科学技術史資料の保存をはかるとともに、広く一般に対して科学技術史資料についての理解を促進していきます。

3．国立科学博物館 産業技術史資料情報センターとは

産業技術史資料情報センターは、技術分野ごとに関連する工業会と協力して、「産業技術史資料の所在調査」を行っています。また、産業技術と社会・経済・文化とのかかわりを研究する「技術の系統化研究」などの調査研究を行っています。

さらに産業技術史資料情報センターでは、重要科学技術史資料の登録制度を運営し、『重要科学技術史資料台帳』を作成するとともに、継続して登録された重要科学技術史資料のアフターケアを行う予定です。

その他にも、産業技術系博物館と連携した活動や、産業技術史をテーマにした展示や学習支援活動を行っています。



重要科学技術史資料登録証



表

見本(裏)

所有者の氏名または名称	株式会社 東芝 独立電源部 電力供給・産業システム技術 北村秀夫
所有者の住所	東京都港区芝罘一丁目1番1号
資料の所在地	神奈川県横浜市都筑区江ヶ崎町4番1号 東京電力株式会社 電気研究所
交付または再交付の年月日	平成26年10月9日

変更年月日	変更等内容

備考
次の場合には、この登録証を破棄して回収してください。
1 所有者が変わったとき。
2 所有者の氏名もしくは名称又は住所を変更したとき。
3 資料に破損・滅失、変更などがあった場合。

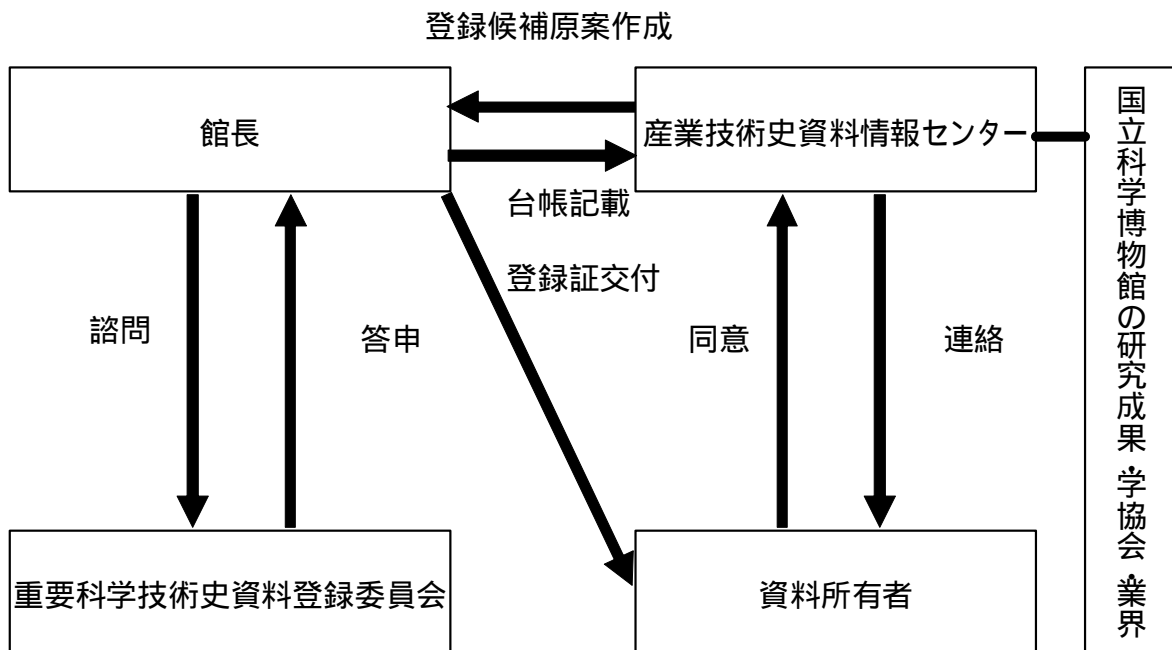
裏

記念盾





登録までの流れ



重要科学技術史資料登録委員会委員

大島まり	東京大学大学院情報学環 / 東京大学生産技術研究所	教授
小川明	共同通信社	編集委員
川村恒明	財団法人 神奈川芸術文化財団	理事長
末松安晴	国立情報学研究所	顧問
鈴木基之	放送大学	教授
柘植綾夫	芝浦工業大学	学長
寺西大三郎	北九州市	参与
橋本毅彦	東京大学	教授
原島文雄	東京電機大学	教授

: 委員長



平成 20 年 2 月 8 日
館長裁定

重要科学技術史資料の選定基準

- 一 科学技術（産業技術を含む。以下同じ。）の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つもので、次の基準を満たすもの
 - イ 科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの
 - ロ 国際的に見て日本の科学技術発展の独自性を示すもの
 - ハ 新たな科学技術分野の創造に寄与したもの
 - ニ 地域等の発展の観点から見て記念となるもの
 - ホ 試行錯誤、失敗の事例など科学技術の継承を図る上で重要な教育的価値を有すもの

- 二 国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えたもので、次の基準を満たすもの
 - イ 国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な役割を果たしたもの
 - ロ 日本経済の発展と国際的地位の向上に一時代を画するような顕著な貢献のあったもの
 - ハ 社会、文化と科学技術の関わりにおいて重要な事象を示すもの

【別添資料】

重要科学技術史資料 一覧

登録番号	名称	所在地	製作年
第 00001 号	特別高圧油入変圧器 (13.2 kV 100 k VA) 現存最古の変圧器	神奈川県 横浜市鶴見区	1910
第 00002 号	巡洋戦艦「金剛」搭載ヤーロー式ボイラー 現存最古級の艦艇用ボイラー	広島県呉市	1911
第 00003 号	TYK 無線電話機 世界初の無線電話	東京都 千代田区	1913
第 00004 号	手吹式ガラス円筒 日本最古級の板ガラス用ガラス円筒	兵庫県尼崎市	1909~ 1920
第 00005 号	高柳式テレビジョン 「イ」の字書き雲母板 世界初のブラウン管式テレビの被写体	神奈川県 横須賀市	1926 頃
第 00006 号	分割陽極マグネトロン マイクロ波技術への世界的貢献	宮城県 仙台市青葉区	1927
第 00007 号	依佐美送信所送信装置 一式 ヨーロッパとの電波の架け橋	愛知県刈谷市	1927~ 1929
第 00008 号	第一号ナイロン紡糸機 日本初のナイロン製造装置	静岡県三島市	1942
第 00009 号	国産初期の硬質塩化ビニル管サンプル 我国最初期の塩ビ管	愛知県東海市	1951
第 00010 号	国産大型船用ディーゼル実験機関 我国初の排気過給機付きディーゼル機関	東京都品川区	1952
第 00011 号	自溶炉図面 (42 枚) 銅精錬技術革新を示す	千葉県 習志野市	1955
第 00012 号	空気湿電池 300 型 空気湿電池	大阪府守口市	1955
第 00013 号	タービン発電機 (旧千葉火力発電所 1 号機) 戦後初めての火力発電用タービン	神奈川県 横浜市鶴見区	1956
第 00014 号	大阪大学真空管式計算機 一式 我国最初期の真空管式電子計算機	大阪府豊中市	1950~ 1959
第 00015 号	KT-PILOT(パイロット計算機) 世界に先駆けたマイクロプログラム方式コンピュータ	神奈川県 川崎市幸区	1961
第 00016 号	噴水型飲料用自動販売機 自販機普及のさきがけ	愛知県豊明市	1962
第 00017 号	電子式卓上計算機 コンペット (CS-10A) 世界初のオールトランジスタ電卓	奈良県天理市	1964
第 00018 号	喜撰山発電所フランシス形ポンプ水車 世界最大容量だった揚水発電用水車	京都府宇治市	1969
第 00019 号	電子式卓上計算機 カシオミニ 電卓普及の契機となったカシオミニ	東京都渋谷区	1972
第 00020 号	VHS 方式家庭用ビデオ (HR-3300) 世界標準となった VTR	神奈川県 横須賀市	1976
第 00021 号	SCARA 試作機 世界で定番となった産業用ロボット	山梨県甲府市	1980
第 00022 号	縮小投影型露光装置 NSR - 1505G2A 世界を席卷した集積回路の製造装置	埼玉県熊谷市	1984
第 00023 号	H ロケット 7 号機 初めての純国産ロケット	鹿児島県 熊毛郡南種子町	1997

マイクロ波技術への世界的貢献

登録番号	第 00006 号
名称 (型式等)	分割陽極マグネトロン
所在地	宮城県仙台市青葉区
	東北大学電気通信研究所
所有者 (管理者)	東北大学電気通信研究所
製作者(社)	岡部金治郎
製作年	1927年
選定理由	世界に先駆けて開発された独創的なマグネトロンである。学生実験で出た、予想と異なる特性を詳細に検討し、周到な実験、創意工夫を行った結果、分割陽極マグネトロンの発明に到った。この発明により、マグネトロンは実用化に向けて飛躍的な進歩を果たした。日本の独創技術の代表的なものの一つである。
登録基準	1 □

公開・非公開	公開
写 真	
その他参考となるべき事項	